

事業名 ^{のしほ} 能代幅広歩道整備事業

設計から道路管理にいたるまで住民と一体となり取り組んだ(P I (住民参加型)方式による)道路整備事業

受賞機関 国土交通省東北地方整備局
能代工事事務所

事業実施期間 平成10年10月～平成11年3月

事業費 261百万円

事業等の特徴

設計から道路管理に至るまで住民と一体となり取り組んだP I方式による道路整備事例である。具体的には、新聞等による意見募集や代表者による検討会を実施し、また歩道の構造とともにフラワーポット等についても住民の意見を踏まえた設計等を行っている。なお、この住民参加による事業がきっかけとなり、新しい町おこし運動が興るなどの効果もたらされている。

事業の概要と利用者等の評価

(国道7号能代市仙遊長根～高埜地区の歩道拡幅事業)
・安全・快適性を確保...歩道拡幅、黒松の植え替え、フラワーポットの設置

整備前は、歩道と車道の間市の木である黒松(巾5～6m)が並列に4m間隔で密生し見通しが悪く、交通事故の原因となっていた。また、歩道が2mと狭かったため、黒松は視界を確保できる間隔で1列に植え直し、歩道部分を3mに拡幅、舗装はカラー・透水性舗装とし、照明灯も増設するとともに、歩道にフラワーポットを設置した。

・P I方式による住民の理解・合意の形式

整備にあたっては、一般市民からの意見を広く聞くため、新聞等による意見募集(P I方式)を行い、それを代表者による検討会に図った意見の反映を、新聞によりフィードバックした。この結果、フラワーポットに花を植えさせて欲しいという声が市民からあがり、これの世話がなされている。また、黒松についても、市民ボランティアによる剪定が行われている。

・新たな地域運動につながる

青年会議所が中心となって「日本一の黒松並木をつくる会」が発足し、黒松をさらに延伸すべく、市民自ら植える新しい町おこし運動が興った。

○計画、設計及び施工のプロセスに対する評価

- ・整備手順についての評価は良かった。
- ・随時、新聞やチラシで公開したことにより「分りやすい行政」という声が少なくなかった。住民側



整備後



ボランティア活動状況

の事業への理解も深まり、工事に対する苦情等は皆無であった。

○事業完了後、施設等に対する評価(環境保全・回復等に対する評価も含む)

- ・地区全体のイメージが良くなった。
- ・通行の安全性が向上した。歩道の快適性がよくなった。
- ・モニュメント・バスケット型照明が能代市のPRに役立っている。
- ・フラワーポットの整備などにおいて、地区住民の連帯意識が強まった。
- ・住民にボランティアに参加しようという意欲が生まれた。等

総合的に見た歩道の整備状況について、「非常によい」「よい」の評価が75パーセントであった。

○評価の把握手法の具体的内容

・「能代幅広歩道」沿線住民と事業者を被験者としたアンケート調査。等

審査委員会委員の意見等

- ・P I方式による意見の収集とそのフィードバック方式をとり、さらなる町おこし運動の展開がなされている。
- ・一貫したP Iの事例である。
- ・フラワーポットや地元の黒松など住民にとって分りやすい素材提供をしている。
- ・黒松は千鳥の方がよかったように見えるが、地元の運動等をみると結果的によかったと思われる。
- ・整備にあたって広範な地元意見の集約を行ったことが評価できる。また、フラワーポットの管理手法や、青年会議所が中心となって新たな町おこし運動が展開されていることなどが評価できる。